



CONTENTS

NIHONGO-KYŌIKU TSŪSHIN No.55/MAY 2006

- 表紙・特集 1
「日本語教育スタンダード」とは？
日本語事業部企画調整課長 嘉数 勝美
- 日本語の教え方イロハ 第1回 4
日本語教師の役割、コースデザインについて考える
- 授業のヒント 6
外国語学習に文化理解を取り込む2
- 新聞・雑誌から見る現代日本 第23回 8
18年間の単身赴任
- 本ばこ（新刊教材・図書紹介） 11
- 文法を楽しく!! 第5回 14
「は」と「が」(2)
- KC（関西国際センター）研修生の
Nippon レポート 第5回 16
日本人は時間に厳しいですか

※本誌で、ルビが文字の下に付いているのは、紙や物差しなどでルビを隠して、漢字の読みの練習ができるようにするためです。

On the Web

http://www.jpj.go.jp/j/japan_j/publish/tsushin/index.html

以下の記事は JF のウェブサイトのみにてご覧になれます。

- 日本語・日本語教育を研究する 第29回
日本語教育でことばと文化をどう考えるか
早稲田大学大学院日本語教育研究科教授 細川英雄
- 授業に役立つホームページ 第14回
昔話を楽しもう
- 海外日本語教育レポート 第12回
アイルランドにおけるヨーロッパ言語ポートフォリオ (European Language Portfolio:ELP) の日本語学習への活用例
小木曾 左枝子 (アイルランド大学ダブリン校 応用言語センター非常勤日本語講師)
- にほんごハローワーク 第5回
お客様の夢をもっと膨らませてあげたい
柳 智恵 (ユジへ) さん
ヤマハリビングテック株式会社 コーディネーター (出身:韓国)

アンケートのお願い

今号も『日本語教育通信』継続送付に関するアンケートを同封しています。前回ご回答いただけていない方は、必ずこのアンケートに記入して返送するか、あるいは以下のアドレスから回答してください。ご協力をお願いします。

http://www.jpj.go.jp/j/japan_j/publish/tsushin/index.html

「日本語教育スタンダード」とは？

にほんごきょういく

国際交流基金日本語事業部 企画調整課長 嘉数勝美
こくさいこうりゅうききん にほんごきょういく けいかくちようせい かちよう かかずかつみ

国際交流基金は、「日本語教育スタンダード」の構築をめざして、2005年度に日本で3回の国際ラウンドテーブルを開催し、国内外の日本語教育、言語、及び言語政策専門家とともに検討を続けています。この記事では、海外で日本語教育に携わるみなさんに、この「日本語教育スタンダード」についてお伝えします。



3月25日に東京で行われた第3回ラウンドテーブル（公開シンポジウム）には340名余りの参加がありました。

日本語教育に携わっているみなさんがこのことばを耳にしたとき、いったい何を連想するのでしょうか。また、もしもこれが「スタンダード日本語」という語順になったらどうでしょうか。後のそれは、たとえば言えば「標準語」や「共通語」がもつ意味や役割に近いものです。しかし、話題の「日本語教育スタンダード」、つまり国際交流基金がいま取り組んでいるのは、日本語を学ぶ人や教える人が、どのような過程（プロセス）を経てそれぞれの目標（ゴール）に達するのか、導くのかという「標準的」な方法論を整備しようということなのです。ですから、標準的なアクセントやイントネーションが固定されたり、また語彙や漢字の数が制限された日本語を公に決めたりしようということではありません。

1. 現在の日本語教育方法論の問題点

もちろん、外国語の教育は今にはじまったわけではなく、ずいぶん昔から行われていて、それぞれの時代の要請に応じて、いろいろな方法論が考えられ、また教材も工夫されてきました。たとえば、学習段階については、「入門」や、「初級」、「中級」、「上級」という分け方があります。しかし、それぞれの分け方は、必ずしも一定不変ではなく、また合理的でもないことを、実はみなさんが一番よく知っているとします。分かっているようで分からないのは、「入門」と「初級」との違いですし、それぞれの「級

の間の境界線がどこであるのか、いつもみなさんを悩ませているはずです。

「日本語能力試験」で使われている「1級」から「4級」までの「級」も、見方によれば、上記の「初級」、「中級」、「上級」という考え方と似ていて、「級」別に平均学習時間や、習得した文字（主に漢字）の数などを、ある程度の標準としています。その意味では、「初級」⇒「中級」⇒「上級」というおおざっぱで感覚的な分類よりは、よほどしっかりできています。しかし、それでもなお、下の「級」から上の「級」への移行になめらかな連続性がないという指摘もあるのです。また、教授法については、伝統的な「文法・訳読教授法（Grammar Translation Method）から、より実際的な「自然教授法（Natural Approach）」や「直接教授法（Direct Method）」が生まれ、そしてコミュニケーション能力を重視した「コミュニケーション言語教授法（Communicative Approach）」などさまざまな方法論が考え出されてきました。一つひとつは、それぞれの特長をもっていますが、しかしこれらの教授法が学習段階別の指導や達成目標と合理的に組み合わせられてきたとは必ずしも言えないのです。

特に、外国語としての日本語教育は、英語やフランス語などと比べればその歴史も経験も浅く、多くの専門家や関係者が懸命にいろいろな工夫をしてきたのですが、海外での学習者が急激に増え、その年齢層や、学習動機や目標が多様化するに伴って、「だれが」、「どこで」、「どんな」対象に当たっても、それぞれのゴール（目標）にうまく導くための理論的で体系的な方法論が不十分であることに気がついたのです。ここで言う不十分とは、一つひとつに問題や課題があるということではありません。対象や範囲の限られた個々の教育現場では、それでも一定の成果を挙げているということはありますが、それぞれの結びつきに一定の方針や方向性が見られず、また学習成果を測定・評価する手法もまだ十分に整備されていないということです。

2. 日本語教育の国際性

しかし、さまざまな国や地域の、さまざまな学校教

育制度の中での日本語教育の基盤づくりを支援することを目的とする基金にとって、そのような問題や課題をそのままにしておくことは、望ましいとは言えません。基金による日本語教育事業は、設立以来一貫して一つひとつの要望や実情に応じて行われてきましたが、先にも述べたとおり、日本語教育の急速な国際的な広がりと多様化を目の当たりにして、もはや今までのような方法論では、めまぐるしい変化に追いつけないのではないかと、「気づき」がありました。また、この国際的な状況から、文字どおり、国の違いや学習環境の違いを超えて、日本語の教育や学習を通じてお互いに通じるところや、影響し合うところがあることも知られてきて、日本語そのものに国際性があるのかという議論よりも、日本語教育そのものの国際性が「熱い話題」となってきたのです。

言語教育の国際性という、国内や地域での多言語化が明らかなアメリカやオーストラリア、そしてヨーロッパでの取組みに注目すべき動きがあることに、おそらくみなさんも思い当たるでしょう。アメリカやオーストラリアでのそれは、一つの国の中で、ヨーロッパでのそれは、言語の異なる国々による共同体という枠組みの中で、複数の言語教育の間で共有する「共通」の方法論を持つということなのです。この考え方でもっとも重要なことは、特定の言語に特別な地位や権威を与えないということですが、まさにその具体化として、学習法や指導法、到達目標（成果）の評価や認定に「共通枠」を設定することが実現されたのです。日本語教育の国際性の強化についても、これを参考にしつつ、またこれまでの蓄積を活かして新しい方法論の工夫ができるのではないかと考えました。

3. 本格的な検討の開始—ラウンドテーブル—

その本格的な検討のためには、まずそれらの現状や実態を知り、日本語教育への応用ができるのかどうかを見極めることが必要不可欠ですから、私たちは「日本語教育スタンダードの構築をめざす国際ラウンドテーブル」を開催することにしました。昨年5月に第1

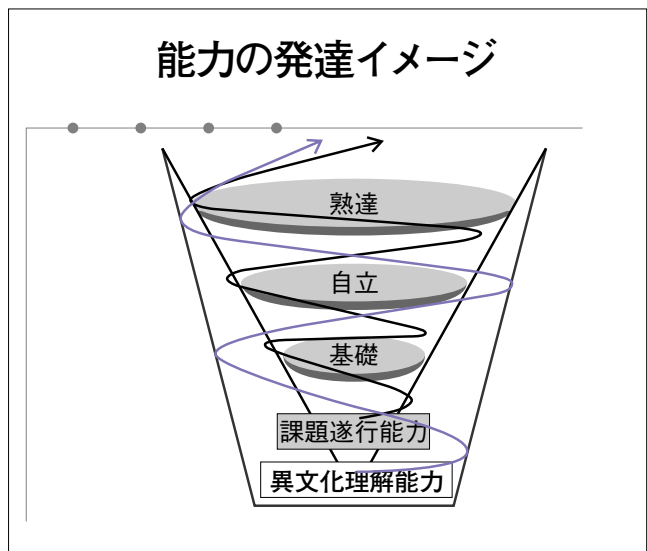


第1回ラウンドテーブル（限定公開）では、各国の言語政策の紹介を中心に2日間の討議が行われました。（2005年5月14～15日）

回を、続いて11月に第2回を開催し、去る3月25日に、それまでの議論や検討の成果を紹介することができたのです。むしろ、それは「完成品」ではなく、いわば「試作品」でした。第1回の議論の中で、「スタンダード」は（状況がつねに変化することを考えれば）「完成品」ではなく、その「過程」において有効に機能すればよいものである、という重要な指摘がありました。私たちののはじめての「試作品」は、まだその「過程」の半分にも達してはいないのです。そのほかにも、「スタンダード」作りには、次のような視点や姿勢が重要であることも分かり、これらが、私たちの「スタンダード」作りの基本となりました。

- 総合的であること
- 開放性があること
- 柔軟であること
- 創造的であること
- ネットワーキングのためであること
- 強制すべきものではないこと
- (完成品ではなく、過程であること)

また、上に紹介した取組みにはそれぞれの特長がありますが、とりわけ学習過程と到達目標との具体的な結びつきを明示した「ヨーロッパ言語教育共通参照枠組み (CEF)」が私たちの一つの目安となったのは、次のような理由があります。それは、CEFがはいまいな「級」や学習時間数を基準に学習過程と目標



「課題遂行能力」と「異文化理解能力」とは、相互に関連するものです。上図は、学習過程の進度に応じた二つの能力の発達をイメージした一例です。（第3回ラウンドテーブル発表スライドより）

を設定し、その評価を行うのではなく、コミュニケーション能力重視の考え方から、学習の成果として「…ができる」という標準を、4つの「技能」と3つの「発達段階」の組合せによって、具体的に整理しているからです。いわゆる“Can-Do-Statement (CDS)”の導入です。実は、いま改定が検討されている「日本語能力試験」においても、やはりこのCDSが一つの基準になっています。私たちはこれまでの3回のラウンドテーブルを通じて、「日本語教育スタンダード」の一つの方向性を見出しました。それは、国際文化交流の一環としての言語コミュニケーションの重要性に着目した「相互理解のための日本語」という考え方で、しかもCEFやCDSを参考に、異文化・異言語間コミュニケーションにおいて重視される「課題遂行能力 (Competence in accomplishing tasks)」と「異文化理解能力 (Competence in international understanding)」の結びつきから、検討をはじめようということです。

最後になりましたが、この「日本語教育スタンダード」はまだ仮の名称であることを予めお断りしておきます。これから数年の検討や研究を経て、やがて一人前になったときに、改めてその「本名」と姿をみなさんにご紹介したいと思います。

コースデザインの流れとチェックポイント

知っていますか？

学校・機関のこと

自分の学校や機関、あるいは地域の教育方針

教師のこと

自分も含めてどのような教師が教えるのか、人数、特性、能力など

自分も含めて教師たちの教授スタイル、教師観

学習者のこと

学習者が学ぶ理由や目的

学習者の学習経験

学習者の現在の能力

学習者の学習スタイル



上のことをよく理解して、次のことを決めましたか？

決められていますか？

コース目標

コースが終わったときに学習者ができること（知識だけでなく、その知識を使って何ができるか）

教える内容

文字、語彙、文型、機能、場面、話題、4技能のどこに重点を置くか、何を中心に教えるか

教える内容の量やバランス、順番

スケジュール

細かい授業分担や全体のスケジュール

教え方

どのような教え方をするか

具体的な練習方法や教室活動

教材・教具

教科書（主教材）

副教材

教具

評価・テスト

評価方法、テスト方法

採点者

結果の利用法

左の図は、コースデザインの流れと各時点でのチェックポイントを書いたものです。

どのような立場で教えていてもコース全体のことを把握しておく必要があります。また2で考えたように、日々の授業のことを考えるときにも、この図にあるような項目を常に意識する必要があります。自分自身の場合をふり返り、左の図の各項目の□にチェックしてみてください。

チェックした結果はどうでしたか。全ての項目について既によく知っている、よく考えて決めてあるという人は少なかったのではないのでしょうか。これからも授業の計画を立てるときに、ときどき思い出して参考にしてみてください。

ここでは、「日本語教師の役割／コースデザイン」について考える上でのヒントを、ごく一部分ご紹介しただけですが、興味のある方は参考文献リストを見てさらに勉強してみてください。

<参考文献>

- 岡崎 眸・岡崎敏雄 (2001) 『日本語教育における学習の分析とデザインー言語習得過程の視点から見た日本語教育ー』凡人社
- 川口義一・横溝紳一郎 (2005) 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』ひつじ書房
- 国際交流基金 (2006) 『国際交流基金日本語教授法シリーズ1 日本語教師の役割／コースデザイン』ひつじ書房 (7月出版予定)
- 小林 ミナ (1998) 『日本語教師・分野別マスターシリーズ よくわかる教授法』
- 高見澤孟 (2004) 『新・はじめての日本語教育2 日本語教授法入門』アスク語学事業部
- 田中 望 (1988) 『日本語教育の方法ーコースデザインの実際ー』大修館書店
- 三牧陽子 (1995) 『日本語教師トレーニングマニュアル⑤ 日本語教授法を理解する本 実践編 解説と演習』バベル・プレス

国際交流基金 日本語教授法シリーズ《全14巻》

国際交流基金は17年間にわたり、世界約90カ国、6500人にのぼる海外の日本語教師を招へし、研修を行って来ました。本シリーズは、その経験から培われた「教え方」の集大成です。

B5判
予価：各巻500～700円



いよいよ刊行!

第7巻
読むことを教える
ISBN 4-89476-307-9

第1巻
日本語教師の役割／
コースデザイン
ISBN 4-89476-301-X

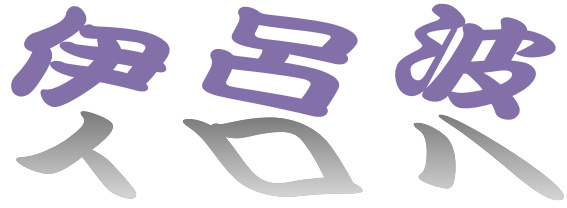
JAPAN FOUNDATION 国際交流基金

ひつじ書房
〒112-0002 文京区小石川5-21-5
tel:03-5684-6871 fax:03-5684-6872
toiawase@hituzi.co.jp www.hituzi.co.jp/

第1回
だい かい

日本語の教え方

に ほん ご おし かた



日本語教師の役割、コースデザインについて考える

に ほん ご きょう し やく わり かんが

日本語国際センター専任講師 久保田美子
に ほん ご こくさい せん にん こう し く ぼ た よ し こ

海外で活躍している日本語教師のみなさんから、よく「日本語教授法を知りたい」「すぐに使える授業活動を提供してもらいたい」という要望をいただきます。

今号から始まる「日本語の教え方イロハ」のコーナーでは、日本語国際センターの専任講師が、日本語の教え方を学んだことのない方に、「コースデザイン」や「読解」「会話」「聴解」「評価」などの基本的な教授理論、教授知識を分かりやすく解説します。既に日本語を教えている方も日本語教授法に関する基礎固め、知識の再点検にお役立てください。

第一回目は、日本語教師の役割とコースデザインについて考えます。具体的な教え方や評価の方法などについて考える前に、まず教師の役割は何か、教えることをどのような姿勢で捉える必要があるのか考えてみましょう。

1. 日本語教師の仕事をつり返る

まず日本語教師の役割について考える前に、日本語教師にはどのような仕事があるか考えてみましょう。今、日本語教師をしている方は自分自身の仕事のリストをつくってみてください。まだ教えていない方は、どんな仕事があるのか想像して書いてみましょう。

例)「教案を書く」「授業をする」「成績をつける」「試験問題をつくる」……

いかがでしたか。書き出したものを眺めながら次の質問に答えてみてください。

- 1) その中には「教えること」だけでなく「学ぶこと」も含まれていましたか。
- 2) その中には「教室の中」「学校の中」ですることだけでなく、「学校の外」ですることでも含まれていましたか。

もうお分りのように、教師の仕事は、「教えること」だけではありません。教えながら同時に学ぶこともたくさんあります。さらに、教師会に参加して勉強したり、常に新しい教え方に興味をもって勉強したりする「学ぶこと」も大事な仕事です。また、教師の仕事は学校の中だけではありません。地域の日本人コミュニティの活動に協力し、学生と日本人との交流をはかったり、同じ地域の教師と教

え方について相談したりすることも大事な仕事です。

2. 日本語教師の仕事をする上で理解しておくべきこと

次に仕事をする上で理解しておかなければならないことは何か考えてみましょう。

まず身近な例から考えてみることにします。たとえば「明日の授業の計画を立てる」ときのことを考えてみてください。その仕事をするために、あなたはどのようなことを視野に入れて考えていますか、また考えなければならないと思いますか。

「明日の授業の計画を立てる」ために、実はかなり多くのことを考えているはずなのです。「学校(機関)」「教師」「学習者」「コースの目標やスケジュール」「教える内容」「教え方」「教材・教具」「評価・テスト」など、様々な項目に関することを考えているのではないのでしょうか。そしてこれは、一つの日本語コースを設計する、いわゆるコースデザインをするときと同じことなのです。教師はとにかく皆さんの知識があれば良い、また、教える技術が豊富であれば良いと考えていませんでしたか。教師には、知識の広さや技術の豊富さだけでなく、授業を組み立てるときにコース全体に関わる様々な要素を考慮して考える視野の広さも必要なのです。

3. コースデザイン

次にこのコースデザインのポイントについて考えてみましょう。

コースデザインの流れとチェックポイント

知っていますか？

学校・機関のこと

自分の学校や機関、あるいは地域の教育方針

教師のこと

自分も含めてどのような教師が教えるのか、人数、特性、能力など

自分も含めて教師たちの教授スタイル、教師観

学習者のこと

学習者が学ぶ理由や目的

学習者の学習経験

学習者の現在の能力

学習者の学習スタイル



上のことをよく理解して、次のことを決めましたか？

決められていますか？

コース目標

コースが終わったときに学習者ができること（知識だけでなく、その知識を使って何ができるか）

教える内容

文字、語彙、文型、機能、場面、話題、4技能のどこに重点を置くか、何を中心に教えるか

教える内容の量やバランス、順番

スケジュール

細かい授業分担や全体のスケジュール

教え方

どのような教え方をするか

具体的な練習方法や教室活動

教材・教具

教科書（主教材）

副教材

教具

評価・テスト

評価方法、テスト方法

採点者

結果の利用法

左の図は、コースデザインの流れと各時点でのチェックポイントを書いたものです。

どのような立場で教えていてもコース全体のことを把握しておく必要があります。また2で考えたように、日々の授業のことを考えるときにも、この図にあるような項目を常に意識する必要があります。自分自身の場合をふり返り、左の図の各項目の□にチェックしてみてください。

チェックした結果はどうでしたか。全ての項目について既によく知っている、よく考えて決めてあるという人は少なかったのではないのでしょうか。これからも授業の計画を立てるときに、ときどき思い出して参考にしてみてください。

ここでは、「日本語教師の役割／コースデザイン」について考える上でのヒントを、ごく一部分ご紹介しただけですが、興味のある方は参考文献リストを見てさらに勉強してみてください。

<参考文献>

- 岡崎 眸・岡崎敏雄 (2001) 『日本語教育における学習の分析とデザインー言語習得過程の視点から見た日本語教育ー』凡人社
- 川口義一・横溝紳一郎 (2005) 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』ひつじ書房
- 国際交流基金 (2006) 『国際交流基金日本語教授法シリーズ1 日本語教師の役割／コースデザイン』ひつじ書房 (7月出版予定)
- 小林 ミナ (1998) 『日本語教師・分野別マスターシリーズ よくわかる教授法』
- 高見澤孟 (2004) 『新・はじめての日本語教育2 日本語教授法入門』アスク語学事業部
- 田中 望 (1988) 『日本語教育の方法ーコースデザインの実際ー』大修館書店
- 三牧陽子 (1995) 『日本語教師トレーニングマニュアル⑤ 日本語教授法を理解する本 実践編 解説と演習』バベル・プレス

国際交流基金 日本語教授法シリーズ《全14巻》

国際交流基金は17年間にわたり、世界約90カ国、6500人にのぼる海外の日本語教師を招へし、研修を行って来ました。本シリーズは、その経験から培われた「教え方」の集大成です。

B5判
予価：各巻500～700円



いよいよ刊行！

第7巻
読むことを教える
ISBN 4-89476-307-9

第1巻
日本語教師の役割／
コースデザイン
ISBN 4-89476-301-X

JAPAN FOUNDATION 国際交流基金

ひつじ書房
〒112-0002 文京区小石川5-21-5
tel:03-5684-6871 fax:03-5684-6872
toiawase@hituzi.co.jp www.hituzi.co.jp/

☆ 授業のヒント

テーマ 外国語学習に文化理解を取り込む 2

目的 もくでき
日本語学習に文化理解が必要であることを知る。 日本語と自国の文化の共通点と相違点に気づく。 異文化に対応できる力(異文化間能力)を育てる。
学習者のタイプ がくしゅうしゃ
初級以上
クラスの人数 にんずう
何人でも

◆文化理解を促す補助教材

みなさんは、どのような補助教材を使っていますか。
補助教材として、写真や絵パネル、実物、ビデオや音声テープなどさまざまなものを使っていると思います。日本の物や写真などを利用すると、学習者の興味をひきつけやすく練習できるだけでなく、日本の姿を伝えることができるという効果があります。自分の国にない物や、同じ物でも形や素材が違う物の場合、日本と自国の生活文化の違いに気づかせることもできます。また、日本人の意識調査の結果などのデータも自分たちの考えと比較させることができ、文化理解を深めることに役立ちます。

◆実物を使う

文型の導入や練習のときにも、日本の実物を使えば、文化理解を授業に簡単に取り入れることができます。例えば、次のような取り入れ方ができます。

文型：(道具/手段)で(動詞)ます

目標：文型の導入と練習。

道具や食文化などの違いについて知り、異文化に興味を持たせる。

活動：

- 日本の年賀状(実際に使われたもの)を見せ、年賀状がどのようなものか話す。次に、毛筆で書かれた年賀状を見せ、何で書いたか考えさせる。日本の毛筆を見せながら「筆で書きました」(過去の形がまだの場合は「筆で書きます」と言い、この文型を導入する。
- 学習者の国の料理の写真を見せ、何で食べるか聞く。次に、日本の料理(箸で食べるもの)の写真を見せ、

今回は前回に続き、日本語授業にどのように文化理解を取り込むことができるか、特に、実物や写真などの補助教材の効果的な使い方を紹介します。

- 何で食べるか聞く。そして、日本の箸を見せる。
- 同じように、自分の国にある料理、日本の料理を挙げて、何で食べるか口頭で練習する。そのとき、同じような料理でも、日本とは食べ方が違うものを挙げるとよい。

例) そば→はしで食べます。
(自国のそばに似た料理)は、スプーンとフォークで食べます。

応用：

- 箸以外の食器などの物や道具に注目して、生活習慣や文化の違い、共通点を考える活動に発展させる。
- 毛筆書きの年賀状を通して、生活習慣が時代によって変わっていくことを紹介し、文化が変わることもあるということに気づかせる。

◆視覚教材を使う

会話の練習をするとき、場面の提示のために写真やイラストを使うことがあります。そのときに日本の場面を用いれば、日本の文化、習慣も同時に扱うことができます。ここでは「みんなの教材サイト」で提供されている写真とイラストを使った会話練習の方法を紹介します。

<金子さんの家の玄関で>

ヤン：こんにちは。
金子：いらっしゃい。どうぞお上がってください。
ヤン：失礼します。

目標：訪問の場面での会話ができる。

訪問時における日本の習慣について学び、自分たちの習慣と比べる。

活動：

- 訪問の場面の写真を見せて、この写真が何の場面か、どのような会話をしているか、考えさせる。



※写真は「写真パネルバンク」に同じものがあります。

- 訪問場面の会話を導入し、なぜ「上がる」という動

詞を使うのか、玄関のイラストを見せて考えさせる。
(日本では玄関で靴を脱ぐ。家の中が靴を脱ぐところより高くなっている。)

- ③訪問の場面の会話を練習する。そのときに、おじぎをする、握手をしないなどの身振りや態度も教える。
- ④ロールプレイを練習し、一組ずつクラスの前で発表させる。
- ⑤もう一度写真を見せて、そのほかの日本の訪問のマナーを紹介し、自分たちの文化や習慣と似ているところ、違うところを話し合わせる。(例えば、日本では玄関のドアを家主が開けるまで客は待っている。客は手土産を持っていく、訪問するときの約束のし方など。)

応用:

- 写真やビデオを自分で撮り、授業で使う。ビデオは、写真に比べて伝えられる情報が多く、行動や身振りなどもはっきりしているの、学習者に異文化の気づきを促しやすい。

◆データをを使う

日本語を学ぶ学習者なら、日本人がふだんどのように生活しているかに興味を持っているのではないでしょう。ここでは、日本を含む複数の国の若者の意識調査の結果を使った活動を紹介しします。

下の表は、内閣府(日本の政府機関)が、日本、アメリカ、ドイツ、スウェーデン、韓国の18才から24才の若者を対象に2003年に行った調査結果をまとめたものです(下記ウェブサイトで質問票と調査結果が公開されている。)

表 休日の過ごし方(各国比較) (%)

国名	順位	1位	2位	3位	4位	5位				
日本	友人と共に過ごす	65.9	テレビなどをみて、のんびり過ごす	52.5	ショッピングを楽しむ	32.6	特に何もせず、ぶらぶら	31.9	読書をしたり、音楽を聞いたりする	27.7
韓国	友人と共に過ごす	67.9	パソコンやインターネットを利用	52.9	テレビなどをみて、のんびり過ごす	45.9	スポーツ、映画、演劇等を見に行く	41.6	恋人と共に過ごす	25.5
アメリカ	友人と共に過ごす	68.0	スポーツ、映画、演劇等を見に行く	50.5	家族と共に過ごす	50.1	テレビなどをみて、のんびり過ごす	49.1	特に何もせず、ぶらぶら	47.3
スウェーデン	友人と共に過ごす	90.6	テレビなどをみて、のんびり過ごす	64.1	ショッピングを楽しむ	59.1	読書をしたり、音楽を聞いたりする	56.1	ディスコ、カラオケなどで過ごす	54.7
ドイツ	友人と共に過ごす	68.5	ディスコ、カラオケなどで過ごす	52.8	恋人と共に過ごす	47.3	スポーツ、映画、演劇等を見に行く	42.6	読書をしたり、音楽を聞いたりする	42.3

目標: 調査結果が説明できる。

他の国の若者の休日の過ごし方について知り、自分たちと比べる。

活動:

- ①学習者をペアまたはグループにして、調査結果の説明を考えさせ、発表させる。

例) 休日の過ごし方について説明します。5つの国の調査結果を見ると、どの国の若者も「友人と共に過ごす」が一番多いです。ドイツ以外の国では「テレビなどを見てのんびり過ごす」若者が多いです。「パソコンやインターネットを利用」する若者が多いのは韓国だけです。

学習者がすぐに説明できない場合は、問答練習から始めてもよい。

例) Q: どの国も一番多いのは何ですか。

A: 「友人と共に過ごす」が一番多いです。

Q: 他の国にない「休日の過ごし方」があるのはどの国ですか。

A: 韓国の若者です。「パソコンやインターネットを利用」する人が多いです。

- ②クラスで同じ調査を行い、結果を集計し5つの国と比べる。クラスの人数が少ない場合は、同じ学年の生徒全員に調査をしてもよい。

- ③調査結果に対して意見や感想を述べる。この話し合いは母語でしてもよい。

留意点:

- 表の見方に慣れていない学習者の場合、まず表の見方を確認する。複数回答であるため、数字を足すと100%を超えることなどは説明が必要だろう。

応用:

- 表の中の言葉や表現が難しいときは、学習者のレベルに合わせて書き換える。
- 同じウェブサイトで他の質問の調査結果も見ることができるので、学習者の興味や関心を考えて他のものも利用する。

◆授業に文化理解を取り込もう

前回と今回で、日本語の授業に文化理解を取り入れる具体的な方法を紹介しました。普段の授業の中でも、言葉の背景にある文化や習慣に注目してみたり、使う教材を工夫してみたりすることによって、日本の文化に触れ、文化の違いについて考える機会が持てます。異文化に対する驚きや発見を通して、自分たちの文化に対する理解も深まるでしょう。学習者の発見を観察しながら、先生方も文化理解を楽しんでください。

参考資料

「みんなの教材サイト」<http://www.jpfp.go.jp/kyozai/>

『写真パネルバンク V・日常生活シリーズ』(1998)

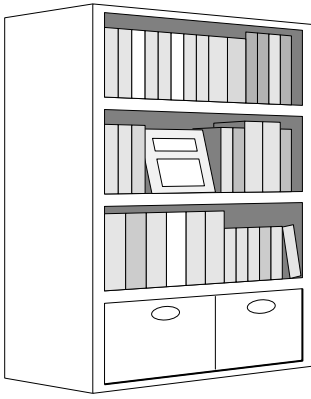
国際交流基金日本語国際センター

「第7回 世界青少年意識調査」(内閣府)

<http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/worldyouth7/pdf/top.html>

このコーナーの担当者: 阿部洋子、中村雅子(日本語国際センター専任講師)

読者の皆さんからのアイデア、成功例、失敗談などぜひお寄せください。



本ばこ

—新刊教材・図書紹介—

「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。誌面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、「海外の先生にとって使いやすい教材」「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っている则便利な図書・資料」などを取り上げます。

- ※データ凡例 1 著者 2 出版社 3 刊行年月 4 ISBN 5 判型・ページ数 6 定価 7 その他

実生活に役立つロールプレイ

『会話に挑戦！中級前期からの日本語ロールプレイ』

データ

1 中居順子、近藤扶美、鈴木真理子、小野恵久子、荒巻朋子、森井哲也 2 スリーエーネットワーク (〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-6-3 (松栄ビル)) TEL.03-3292-5751 FAX.03-3292-6195 URL. http://www.3anet.co.jp
3 2005年9月1日 4 4-88319-361-6 5 B5判 146ページ 6 2,520円 7 CD (30分)、別冊
実践例、解答例付



適切かどうか、また、自分に何が足りなかったのか、どんな言語知識、表現が必要だったのかを気づかせることです。それから、教材で提示されている表現や語彙を勉強させ、再度のロールプレイにつなげます。

ロールプレイの場面は全部で22あります。

「希望の部屋を探す」「電話でアルバイトに応募する」「ごみの出し方を注意されて謝る」「進学について教えてもらう」「面接の練習をする」など、どれも留学生の実生活にすぐ役立つものです。また、一つの場面で行う活動はだいたい90分から100分に設定されています。活動の手順や時間配分も書かれており、授業の参考になります。

「気づきシート」の「使い方」もあります。多くの「気づき」を促すため、「気づきシート」も2種類載せてあります。短い感想を書く「気づきシート1」と発表のポイントを書く「気づきシート2」に学習者が互いに気づいたことや感想を記入することによって、自分達の発話を観察する視点も育てます。

別冊には〈授業実践例(ロールプレイの目的のほかに各活動の時間配分や授業の流れ、授業内容、教師の指示、学生の発話などが詳しく書かれている)〉と〈会話を考えよう例(各課の「会話を考えよう」「ウォームアップ」「表現・語彙」の解答例)〉があります。

さらに、より豊かな留学生活を送るため、「初対面の人と話すときには」「依頼のしかた」などのコラムも多数あります。授業でそれを「ウォームアップ」に利用したり、「ロールプレイ」のまとめやディスカッションの資料として活用したりすることもできます。

▽「気づき」を重視する会話教材

本教材は日本語初級を修了した段階から使える会話教材です。一番の特徴として、ロールプレイ(学習者がロールカードに書かれた役角を演ずることによって学習項目の定着を図る方法)を通じて、学習者に多くの気づきを生み出すことが挙げられます。教材の作りはロールプレイをする前に、学習者にその場面で使われるであろう表現や語彙を提示せずに、ロールプレイを行わせるようになっています。もちろん、この場合、会話がスムーズにできなかったり、途中で失敗したりしますが、目的は学習者に自分で考えた表現が状況に合うかどうか、語彙が

▽総合的な日本語力を高めることを目標とした会話教材

本教材には本冊と別冊があります。本冊は22の課があり、各課は「目的」「ウォームアップ」「ロールプレイ」「会話を考えよう」「表現・語彙」「もう一度、発表しよう」の順で構成されています。それに「教材の使い方と注意点」

目次		CONTENTS	
序章	1	12. 目的や状況の描写を練習する	10 12
1. 目的や状況の描写を練習する	1	13. 日常生活でよくあることを練習する	10 12
2. 目的や状況の描写を練習する	1	14. 先立って話を準備する	10 12
3. 目的や状況の描写を練習する	1	15. 準備をしながら話す	10 12
4. 目的や状況の描写を練習する	1	16. 目的や状況の描写を練習する	10 12
5. 目的や状況の描写を練習する	1	17. ごみ出し方を注意されて謝る	10 12
6. パーティーで知り合った人と話す	1	18. 友達と遊ぶ約束をする	10 12
みんなと楽しくなろう		大学生活に慣れよう	
1. 目的や状況の描写を練習する	1	19. 目的や状況の描写を練習する	10 12
2. 目的や状況の描写を練習する	1	20. 目的や状況の描写を練習する	10 12
3. 目的や状況の描写を練習する	1	21. 目的や状況の描写を練習する	10 12
4. 目的や状況の描写を練習する	1	22. 目的や状況の描写を練習する	10 12
5. 目的や状況の描写を練習する	1		
6. パーティーで知り合った人と話す	1		
快適に暮らそう		別冊	
7. 目的や状況の描写を練習する	1	授業実践例(下) 授業実践例(上) 発表しよう	
8. 目的や状況の描写を練習する	1		
9. 目的や状況の描写を練習する	1		
10. 目的や状況の描写を練習する	1		
11. 目的や状況の描写を練習する	1		

目次 6くじ

8. 医師に症状を説明する

1. 目的や状況の描写を練習する

2. 目的や状況の描写を練習する

3. 目的や状況の描写を練習する

4. 目的や状況の描写を練習する

5. 目的や状況の描写を練習する

6. パーティーで知り合った人と話す

目的や状況の描写を練習する

目的や状況の描写を練習する

目的や状況の描写を練習する

目的や状況の描写を練習する

目的や状況の描写を練習する

目的や状況の描写を練習する

P. 56

P. 57

日本語教育についての基本事項を網羅した百科事典の新版
にほんごきょういく きほんじこう もうら ひゃっかじてん しんぱん

『新版日本語教育事典』
しんぱんにほんごきょういくじてん

データ

1 日本語教育学会編 2 大修館書店 (〒101-8466 東京都千代田区神田錦町3-24) TEL. 03-3295-6231 FAX.03-3295-4108 URL. http://www.taishukan.co.jp 3 2005年10月1日 4 4-469-01276-9 5 1,170ページ 6 9,450円

この事典は、旧版『日本語教育事典』(1982年初版)の内容を全面的に見直し、近年の日本語教育の変化に対応して、新たな事典として編纂されたものです。日本語教育だけでなく、言語学、教育学、情報学、心理学、哲学など、多様な分野から400名を超える専門家が執筆にあたり、幅広い視点から総合的に日本語教育を捉えた内容になっています。日本語教育以外の分野の方も読者として想定していますので、あまり予備知識がない人でも理解できます。

「音声・音韻」、「文法」「語彙・意味」「ことばと運用」「文字・表記」「ことばと社会」「言語・言語教育研究の方法」「言語習得・教

授法」「教育・学習メディア」「国内の日本語教育」「海外の日本語教育」の11の大分類のもとに合計1,000項目を超える内容が解説され、基礎的な知識だけでなく、最新の研究動向についても紹介されています。

この事典の特色は、実際に教えるときに役に立つ情報が盛り込まれていることです。解説では、問題を具体的に提示し、その問題に取り組む視点と考え方が示されています。

また、内容によっては、わかりやすい表や図がついていて知識を整理するのに役立ちます。各解説の終わりには参考文献が掲載されていますので、研究を進める上で参考にすることもできます。

日々の疑問をそのままにしておかずに、

時々参考になさることをお勧めします。

また、この事典には、2003年度から改定・施行された日本語教育能力検定試験の新シラバスに対応した内容も網羅されていますので、日本語教師になるために勉強している方にも役に立ちます。



Table with multiple columns and rows, likely a table of contents or index page (P. 208).

Table with multiple columns and rows, likely a table of contents or index page (P. 209).

P. 208

P. 209

コンビニやファミリーレストランの人気商品を写真で紹介
にんきしょうひんしゃしんしょうかい

『ファミリーレストランでおしよくじ』『コンビニエンスストアでおかいもの』350シリーズおしごとえほん①②

データ

1 みっとめるへん社編 2 ポプラ社 (〒160-8565 東京都新宿区大京町22-1) TEL.03-3357-2212 FAX.03-3359-2359 URL.http://www.poplar.co.jp 3 2005年9月 4 ①4-591-08799-9 ②4-591-08800-6 5 各B5変形判16ページ 6 367円

子どもたちに人気がある商品やメニューを紹介する写真絵本です。18センチ四方の厚紙の本です。

『ファミリーレストラン』では、ハンバーグなどのお肉料理、和食、子供の好きなスパゲティやカレーライス、お子様メニューの他に、飲み物やデザートの写真が名前とともに出ています。一番最後のページには、お子様ランチができるまでの手順が簡単な解説つきで示されています。

『コンビニエンスストア』では、お弁当、飲み物、デザート、パン、おかしなどの棚と、代表的な商品の写真が出ています。最後のページには、お店におにぎりがならぶまでの工程が出ています。

どちらの本にも物の値段は表示されています。カタカナには振り仮名がふつてあります。

このようなカラーの絵本は、年少者だけでなく、日本にまだ行ったことがないあらゆる学習者にとって興味深いものでしょう。学習に利用する方法はいろいろあります。

例えばレストランで注文をしたり、コンビニで買い物をしたりするときの会話練習に利用できます。名前と写真のマッチングゲームを作ってもいいですね。値段をインターネットで調べたり、自国の物価と比較するのも面白いでしょう。自国で珍しい商品なら、どのようなものか想像してから、後で調べて発表するという学習にしても面白いだろうと思います。

シリーズには「ほかほかやきたてばんやさん」



「しょうぼうしさんしゅつどう」「どうぶつえんのおしごと」「きれいなはなやさん」があります。



『ファミリーレストラン』P13・P14



『コンビニエンスストア』P7・P8

専門の文章を効率よく読むために

『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』

データ

1 一橋大学留学生センター 2 スリーエネットネットワーク (P.11のデータ参照) 3 2005年10月17日 4 4-88319-369-1 5 B5判69ページ 6 1,260円 7 別冊付

本書は、日本語の新聞を辞書なしで読むことが少し難しい、中級後半～上級前半レベルの留学生のために書かれた文章読解のテキストです。特に経済学や法学などの社会科学を専門に学んでいる学生や、日本の社会や文化について詳しく知りたいと思っている学生を対象にしています。

この本のいちばん大きな特徴は、入門書や論文などの専門の文章が読めるようになるための「読解のストラテジー」が学べるという点です。取り上げられているストラテジーは、「キーワードを見つける」「文章の問いをつかむ」「文章の問いに対する答えを見つける」「出来事の前後関係をつかむ」「出来事の因果関係をつかむ」「対比

の構造をつかむ」「譲歩と逆接の構造をつかむ」

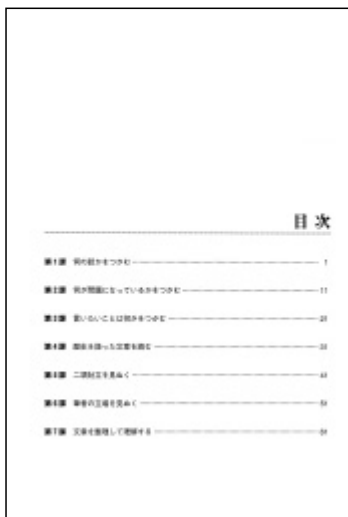
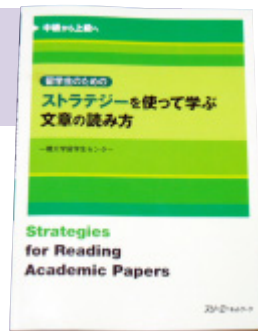
「列挙の構造をつかむ」といった読み方です。

本書は、〈本文〉〈読解のストラテジー〉〈ストラテジーを身につける練習〉〈実践練習〉〈本文語彙・実践練習語彙〉の5つの部分から構成されていて、練習を通していろいろな「読解のストラテジー」が身につくように作られています。

文章の内容やテキスト・タイプが社会科学分野の専門の文章に限られているので、多様なタイプの文章の読み方を練習することはできませんが、本書の中で展開されているアイデアを他の読みの素材に対してどのように

応用すること

ができるか、教師の腕の見せ所といえるでしょう。



目次



P.4の〈読解ストラテジー〉

表現の効果や意味を豊富な談話例から学ぶ

『日本語教育の現場で使える 談話表現ハンドブック』

データ

1 泉子・K・メイナード 2 くろしお出版 (〒112-0002 東京都文京区小石川3-16-5) TEL. 03-5684-3389 FAX.03-5684-4762 URL.http://www.9640.jp 3 2005年11月21日 4 4-87424-335-5 5 A5判 505ページ 6 3,150円

外国語を学ぶためには語彙や文法の知識だけでなく、談話上の知識も重要であると言われています。実際、「は」と「が」の使い分けや、ある文型、例えば受身文がどのような効果をもたらすかを理解するには、文法知識だけでは十分ではありません。さらに、文章の読解でも、全文の内容や書き手の意見などを理解するためには、談話全体にわたった知識が必要となります。

本書では、談話を「コミュニケーションを目的として行なわれる言語行為」と定義し、話し言葉と書き言葉の両方を含めています。本書は、日本語教育に役立つ日本語の談話表現の基礎的な55項目(事項)を選んで、解説しています。いろいろな

ジャンルから選ばれた豊富なディスコース(談話の断片)の例を載せているのが特徴です。

全体は8章から成ります。各章の初めにその章全体に関する概説、続いてその章の各事項について、その談話上の機能や表現効果をポイントごとに解説し、さらに、その事項がよく使われるジャンルから具体的な使用例を示して、説き明しています。最後に、教えるためのヒントと参考文献を載せています。

例えば、「は」と「が」については、第6章「文表現」の「現象文と判断文」の事項で、主語に「が」が使用される現象文と、「は」が使用される判断文が、談話の展開にどのように関わ

ているかを、小説の一部を例として具体的に解説しています。また、

「日本語のバリエーション」の章で「世代差と言語」の事項に「若者ことば」を、「ジャンル別談話の表現と構造」の章で「マンガ・アニメの世界」という事項を取り上げるなど、最近の談話現象も扱っています。本書は、談話分析の学習書や日本語教師の参考書としての利用のほかに、上級の読解教材としても使えます。



<p>目次</p> <p>1. はじめに</p> <p>2. 現象文と判断文</p> <p>3. 譲歩と逆接</p> <p>4. 列挙</p> <p>5. 比較</p> <p>6. はとが</p> <p>7. 主語</p> <p>8. 文表現</p> <p>9. 文表現</p> <p>10. 文表現</p> <p>11. 文表現</p> <p>12. 文表現</p> <p>13. 文表現</p> <p>14. 文表現</p> <p>15. 文表現</p> <p>16. 文表現</p> <p>17. 文表現</p> <p>18. 文表現</p> <p>19. 文表現</p> <p>20. 文表現</p> <p>21. 文表現</p> <p>22. 文表現</p> <p>23. 文表現</p> <p>24. 文表現</p> <p>25. 文表現</p> <p>26. 文表現</p> <p>27. 文表現</p> <p>28. 文表現</p> <p>29. 文表現</p> <p>30. 文表現</p> <p>31. 文表現</p> <p>32. 文表現</p> <p>33. 文表現</p> <p>34. 文表現</p> <p>35. 文表現</p> <p>36. 文表現</p> <p>37. 文表現</p> <p>38. 文表現</p> <p>39. 文表現</p> <p>40. 文表現</p> <p>41. 文表現</p> <p>42. 文表現</p> <p>43. 文表現</p> <p>44. 文表現</p> <p>45. 文表現</p> <p>46. 文表現</p> <p>47. 文表現</p> <p>48. 文表現</p> <p>49. 文表現</p> <p>50. 文表現</p> <p>51. 文表現</p> <p>52. 文表現</p> <p>53. 文表現</p> <p>54. 文表現</p> <p>55. 文表現</p>	<p>目次</p> <p>1. はじめに</p> <p>2. 現象文と判断文</p> <p>3. 譲歩と逆接</p> <p>4. 列挙</p> <p>5. 比較</p> <p>6. はとが</p> <p>7. 主語</p> <p>8. 文表現</p> <p>9. 文表現</p> <p>10. 文表現</p> <p>11. 文表現</p> <p>12. 文表現</p> <p>13. 文表現</p> <p>14. 文表現</p> <p>15. 文表現</p> <p>16. 文表現</p> <p>17. 文表現</p> <p>18. 文表現</p> <p>19. 文表現</p> <p>20. 文表現</p> <p>21. 文表現</p> <p>22. 文表現</p> <p>23. 文表現</p> <p>24. 文表現</p> <p>25. 文表現</p> <p>26. 文表現</p> <p>27. 文表現</p> <p>28. 文表現</p> <p>29. 文表現</p> <p>30. 文表現</p> <p>31. 文表現</p> <p>32. 文表現</p> <p>33. 文表現</p> <p>34. 文表現</p> <p>35. 文表現</p> <p>36. 文表現</p> <p>37. 文表現</p> <p>38. 文表現</p> <p>39. 文表現</p> <p>40. 文表現</p> <p>41. 文表現</p> <p>42. 文表現</p> <p>43. 文表現</p> <p>44. 文表現</p> <p>45. 文表現</p> <p>46. 文表現</p> <p>47. 文表現</p> <p>48. 文表現</p> <p>49. 文表現</p> <p>50. 文表現</p> <p>51. 文表現</p> <p>52. 文表現</p> <p>53. 文表現</p> <p>54. 文表現</p> <p>55. 文表現</p>	<p>目次</p> <p>1. はじめに</p> <p>2. 現象文と判断文</p> <p>3. 譲歩と逆接</p> <p>4. 列挙</p> <p>5. 比較</p> <p>6. はとが</p> <p>7. 主語</p> <p>8. 文表現</p> <p>9. 文表現</p> <p>10. 文表現</p> <p>11. 文表現</p> <p>12. 文表現</p> <p>13. 文表現</p> <p>14. 文表現</p> <p>15. 文表現</p> <p>16. 文表現</p> <p>17. 文表現</p> <p>18. 文表現</p> <p>19. 文表現</p> <p>20. 文表現</p> <p>21. 文表現</p> <p>22. 文表現</p> <p>23. 文表現</p> <p>24. 文表現</p> <p>25. 文表現</p> <p>26. 文表現</p> <p>27. 文表現</p> <p>28. 文表現</p> <p>29. 文表現</p> <p>30. 文表現</p> <p>31. 文表現</p> <p>32. 文表現</p> <p>33. 文表現</p> <p>34. 文表現</p> <p>35. 文表現</p> <p>36. 文表現</p> <p>37. 文表現</p> <p>38. 文表現</p> <p>39. 文表現</p> <p>40. 文表現</p> <p>41. 文表現</p> <p>42. 文表現</p> <p>43. 文表現</p> <p>44. 文表現</p> <p>45. 文表現</p> <p>46. 文表現</p> <p>47. 文表現</p> <p>48. 文表現</p> <p>49. 文表現</p> <p>50. 文表現</p> <p>51. 文表現</p> <p>52. 文表現</p> <p>53. 文表現</p> <p>54. 文表現</p> <p>55. 文表現</p>	<p>目次</p> <p>1. はじめに</p> <p>2. 現象文と判断文</p> <p>3. 譲歩と逆接</p> <p>4. 列挙</p> <p>5. 比較</p> <p>6. はとが</p> <p>7. 主語</p> <p>8. 文表現</p> <p>9. 文表現</p> <p>10. 文表現</p> <p>11. 文表現</p> <p>12. 文表現</p> <p>13. 文表現</p> <p>14. 文表現</p> <p>15. 文表現</p> <p>16. 文表現</p> <p>17. 文表現</p> <p>18. 文表現</p> <p>19. 文表現</p> <p>20. 文表現</p> <p>21. 文表現</p> <p>22. 文表現</p> <p>23. 文表現</p> <p>24. 文表現</p> <p>25. 文表現</p> <p>26. 文表現</p> <p>27. 文表現</p> <p>28. 文表現</p> <p>29. 文表現</p> <p>30. 文表現</p> <p>31. 文表現</p> <p>32. 文表現</p> <p>33. 文表現</p> <p>34. 文表現</p> <p>35. 文表現</p> <p>36. 文表現</p> <p>37. 文表現</p> <p>38. 文表現</p> <p>39. 文表現</p> <p>40. 文表現</p> <p>41. 文表現</p> <p>42. 文表現</p> <p>43. 文表現</p> <p>44. 文表現</p> <p>45. 文表現</p> <p>46. 文表現</p> <p>47. 文表現</p> <p>48. 文表現</p> <p>49. 文表現</p> <p>50. 文表現</p> <p>51. 文表現</p> <p>52. 文表現</p> <p>53. 文表現</p> <p>54. 文表現</p> <p>55. 文表現</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

P.11～13は国際交流基金の以下の日本語専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。

王 崇梁、久保田美子、長坂水晶、木谷直之、向井園子(執筆順)

文法を楽しく!!

「は」と「が」(2)

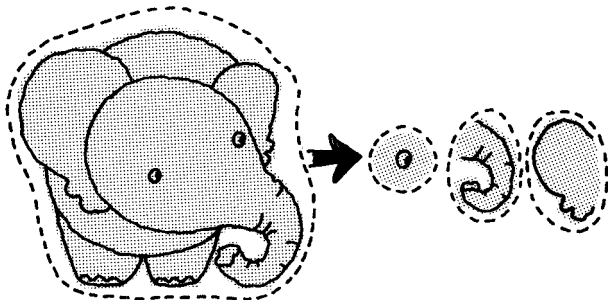
通信で習った項目: 「は」と「が」、他動詞・自動詞、受身、やりもらい、～てきた、～ていく、～ている、～てある、～ために、～ように、～たら、～と

前回は「は」と「が」の使い方の基本を勉強しました。今回はもう少し突っ込んで考えていきたいと思います。皆さんは次の文の a と b の違いがわかりますか。(2) と (3) は宿題でしたね。

- (1) a. 象は鼻が長い。
b. 象の鼻は長い。
- (2) a. 林さんが帰るとき、_____。
b. 林さんは帰るとき、_____。
- (3) a. 今日は友達と東京へ行くつもりです。
b. 友達と東京へ今日は行くつもりです。
- (4) a. 子供の結婚式で泣かなかった。
b. 子供の結婚式で泣きはしなかった。

1. 皆さんが象の姿を頭に思い浮かべて、象について何か話そうとするとき、もう頭の中では「象は・・・」という言い方が始まっています。たぶん象全体を思い浮かべ、そのあとで、象の目や鼻や耳など、象の部分を思い浮かべていくでしょう。

象 → 鼻 目 耳 ……



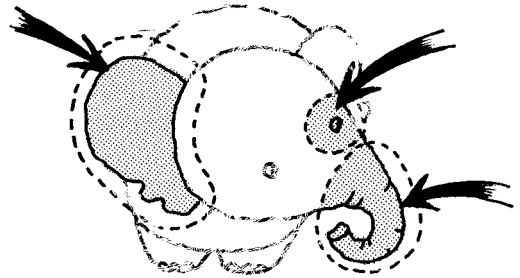
そのとき出てくる文が (1) a のように、

象は鼻が長い。象は目が小さい。象は耳が大きい。…

です。これらの文では、「象」が話の中心、つまり、主題(トピック)で、目や鼻、耳などは一部分でしかありません。

一方、象の全体ではなく、象の目や鼻や耳などの部分に注目して、その部分について何かを述べようとするときは、(1) b のように、

象の鼻は長い。象の目は小さい。象の耳は大きい。…



となります。ここでは「象の鼻」「象の目」「象の耳」が話の中心で、象そのものは主題(トピック)ではありません。

2. 皆さんは (2) の a b の文を完成してみましたか。次の i, ii は a b どちらに続けるといいでしょうか。

- i いつも「失礼しました」と言います。
- ii 私もいっしょに帰ろうと思います。

答は a - ii、b - i です。

- a. 林さんが帰るとき、私もいっしょに行こうと思います。
- b. 林さんは帰るとき、いつも「失礼しました」と言います。

a では「帰る」のは誰ですか。林さんですね。では、「いっしょに行く」のは? そうです。「私」ですね。

b では「帰る」のは……林さんですね。では、「失礼しました」と言うのは誰ですか。やはり、林さんですね。ここでわかるのは、a の「林さんが」は「帰る」にしかかからない(影響を及ぼさない)のに対して、b の

「林さんは」は「帰る」だけでなく、うしろの文の「いつも…と言います」までかかって（影響を及ぼして）いるという事です。

- a. 林さんが帰るとき、私も いっしょに行こうと思います。
b. 林さんは 帰るとき、いつも「失礼しました」と言います。

このことを文法的に言うと、「が」は小さくかかる。「は」は大きくかかる。」ということになります。次の(5)も同じです。

- (5) a. 鳥が 飛ぶとき、木の枝が 揺れる。
b. 鳥は 飛ぶとき、木の枝を揺らす。

3. (3) aと(3) bはどこが違うでしょうか。「今日は」の場所が違いますね。aでは文の一番前に、bでは動詞のすぐ前に来ています。「今日は」の場所が違うことで、意味の違いがあるのでしょうか。次の会話ではaとbのどちらを使えばいいか考えてください。

【会話1】 A：こんにちは。いいお天気ですね。

B：暖かいですね。

A：どこかへ行きますか。

B：ええ、()

A：そうですか。いいですね。

【会話2】 A：きのう友達と東京へ行かなかったんですか。

B：ええ、ちょっと忙しくて。

A：いつ行くんですか。早く行ってくださいよ。

B：すみません。()

A：きっと行ってくださいよ。

会話1にはaが、会話2にはbが当てはまります。会話1では「今日どこへ行くのか」ということが話題になっているので、Bの答は「今日は友達と東京へ行くつもりです。」となります。一方、会話2では、Bはきのうも東京に行かなかったので、Aから早く行くように催促されています。それで「きのうではなく、明日でもなく、友達と東京へ今日は行きます」と「今日」を強調して答

えています。「今日」をほかの日と比べて、対比的に取り上げています。*

【今日】に限らず、「名詞+は」が動詞のすぐ前にあると対比的な意味合いを持つことが多くなります。次の(6)(7)の「は」も対比を表しています。

- (6) 魚は食べますが、肉はちょっと…。
(7) 田中さんからメールが来るけれど、山田さんから来ない。

このように、「は」は主題(トピック)だけでなく、対比を表します。

* 「今日は」を強く発音すれば、会話2のBに「a. 今日は友達と東京へ行くつもりです。」が来ることもできます。

4. (4) のaとbはどう違うでしょうか。aには「は」がありませんが、bは「泣かなかった」の中に「は」が入り込んで「泣きはしなかつた」となっています。

【会話3】 A：お嬢さんのご結婚、おめでとう。

B：ありがとう。

A：結婚式では泣いたんじゃない？

B：a. うん、泣かなかったよ。楽しかったよ。

b. うん、泣きはしなかつたけど…。

B aとB bを比べてください。B aは単に「泣かなかった」という事実を述べていますが、B bでは、「泣かなかった」と何かを、対比的に想像させる言い方をしています。「泣かなかったけど、泣きそうになった」とか「泣かなかったけど、胸がいっぱいになった」「泣かなかったけど、涙がこみ上げてきた」というようなことを想像させます。このように「は」は、動詞の中に入り込むことによって、対比的に、ほかのことを想像させる働きを持っています。これも「は」の対比の働きのひとつです。

今回は前回に引き続き、「は」と「が」の用法について説明しました。前回の「まとめ」に今回のポイントを加えると、「は」と「が」の全体像が見えてくると思います。

参考文献

- 三上 章 (1960) 『象は鼻が長い』くろしお出版
市川保子 (2005) 『初級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク

このコーナーの担当者：市川保子(日本語国際センター客員講師)
このコーナーについてご感想やご質問があれば送ってください。
「ヤスコの日本語ハウス」という個人のホームページを開いています。英語の翻訳も付いていますので、ぜひ活用してください。
ホームページのアドレスは、<http://homepage3.nifty.com/i-yasu/index.htm> です。

KC研修生の
(関西国際センター)

Nipponレポート

第5回

日本人は時間に
厳しいですか

このコーナーでは、関西国際センターの日本語研修に参加している
研修生が研修を通して発見した **Nippon** についてレポートします。



「日本語学習者訪日研修 (大学生・春季)」では、「インタビュープロジェクト」と題して、
日本や日本人について興味があることを調べました。トルコのエルダグさん、アゼルバ
ジャンのシャイグさん、メキシコのダニエルさん (写真左から) は、「日本人の時間感
覚」について調べることにしました。

◀日本人にインタビューしているところ

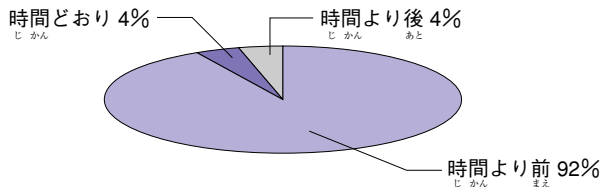
【日本人にインタビューしました】

一般的に日本人は時間を守りますか？

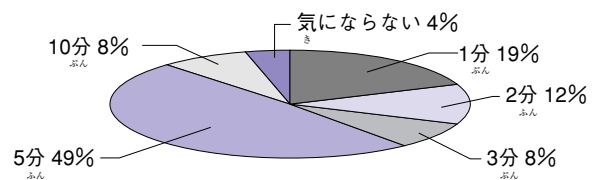
全員の答え「はい」

もう少し詳しく聞きました。

友達と約束したとき、いつ行きますか？



電車やバスが何分遅れたら気になりますか？

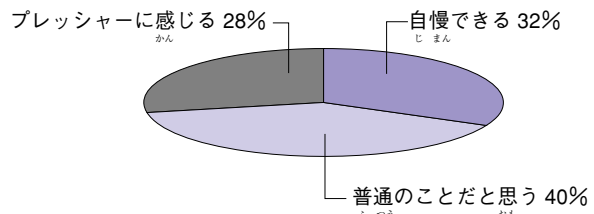


どうして「時間を守ることが大切だ」と
思いますか？

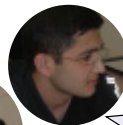
<日本人の意見>

- 他人に迷惑をかけるのはよくないことだから。
- 子どもの時から、両親に「時間を守りなさい」と言われてきたから。
- 仕事でも日常生活でも、時間は一番大切なものだから。

「日本人がきちんと時間を守ること」につ
いてどう思いますか？



私は、友達との約束だったら、時間よ
り前に行くことはあまりないです。遅
れてもだいじょうぶだと思います。



私の国では、電車やバスが10分以上
遅れても、人々はあまり気にしません。
遅れるのが普通だと思っているからか
もしれません。



いろいろ調べてみて、私たちの国と日本では、時間に対する感覚がちがうことがわかり
ました。時間に遅れて人に迷惑を掛けてはいけないということを、親は子どもに、子ど
もは孫に教えるので、時間を守ることは日本人にとって普通のことになりました。だか
ら、日本人は、仕事の時だけでなく、家族や友達の間でも時間を守るのだと思います。

▽「日本人と時間」についてもっと知りたい人は下の URL を見てください。

ときをまなぼう (「バーチャル教室」ページの日本語/英語/韓国語)
<http://www.kodomo-seiko.com/classroom/index.html>

シチズン意識調査 (日本語のみ)

<http://www.citizen.co.jp/research/time/20030528/index.html>

このコーナーの担当者: 和泉元千春、品川直美 (関西国際センター日本語教育専門員)、リポーター: 3人の研修生

『日本語教育通信』 第55号 2006年5月発行

編集・発行 独立行政法人 国際交流基金 日本語事業部企画調整課
〒107-6021 東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル21F

The Japan Foundation
Planning and Coordination Div., Japanese - Language Dept.
(Ark Mori Bldg. 21F, 1-12-32 Akasaka Minato-ku, Tokyo 107-6021, Japan)
TEL. 03-5562-3525 FAX. 03-5562-3498 E-Mail jfnct@jpf.go.jp

編集協力 財団法人 国際文化交流推進協会
Japan Association for Cultural Exchange (ACE Japan)